



進学先大学 横浜市立大学 医学部 医学科

加藤 咲磨 / Sakuma Kato

座右の銘

明日終わっても悔いのない人生を

出身校	ぐんま国際アカデミー高等部	IB経験	DP
略歴	2022年11月にDPの最終試験を受験し、2023年3月に卒業。 国際バカロレア特別選抜により、横浜市立大学医学部医学科に進学。		

進学先の大学・学部・専攻を選んだ理由

病気やその治療に対して興味を抱いていたことに加え、人の命を助けることに直接貢献できる点に惹かれ、医学を志しました。IB生を積極的に受け入れていることや、留学プログラムが充実していることに魅力を感じ、横浜市立大学を進学先として選びました。

志望校合格に向けてどのように努力したか

横浜市立大学のIB入試は主にIBスコアと面接によって合否が決まるため、まずは確実に高いIBスコアを取れるように努力しました。また、出願書類を準備する過程でEEやCASについて振り返り、自分の志とこれまでの経験との結びつきを意識しました。

大学で学んでいること

1年次では化学などの教養科目を学び、2年次から正常な人体の構造や機能を学ぶ基礎医学の勉強を始めました。3年次からは臨床医学の勉強も始まり、診療科ごとに様々な病気やそれに対する治療法を学んでいます。病棟実習が始まるのは4年次以降となるのですが、基礎医学の実習は2年次から経験していて、直近ではマウスに薬剤を投与してその作用を観察する薬理学実習などがありました。3年次の講義は座学が中心ですが、まだ解明されていない病気のメカニズムや試験段階の治療法についても学ぶことができ、興味深いです。

IBで学んだスキルが大学の学びで生かされた場面

大学では講義資料に論文の引用が登場することもあります。EEやIAを書く上で英語論文を参照することもあるため、そのような資料に対しても苦手意識を抱かずに学習できています。また、実験レポートに取り組む際にも、構成や図表の作成などにIAでの経験を生かしますし、やや重めなものを課された際にも、EEを書き上げた経験があるためあまり臆することなく向き合えます。文献の信憑性を吟味した上で出典を明記することが自然にできるのも、IBで培ったアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）のおかげだと思います。

大学生活で最も発揮している「IBの学習者像」とは？

「挑戦する人」
理由：IBでいくつもの課題や課外活動を並行してこなしていく経験を積んだことで、課題や試験がある中でも様々な課外活動に挑戦できています。

今描いている今後のキャリア

まだどの診療科に進むかなど、具体的なキャリアは描けていないのですが、臨床に携わりながらもその中で直面した医療の限界を突破するべく、研究にも従事できれば理想的ではないかと考えています。